

4 「ホンドテンモニタリングを活用した環境教育教材の開発」

平成26年度の赤谷森林ふれあい推進センターでは、新たな取組として、長年培ってきた「ホンドテンモニタリング」のノウハウを活用し、環境教育教材の開発に着手しました。

「ホンドテンモニタリングを活用した環境教育教材の開発」

ホンドテンは日本全国各地、海岸近くから奥山まで広く生息している身近な動物です。このテンは、何でも食べるのが特徴で、ネズミはもちろん、サワガニが好物で、バッタ類や甲虫類も好物です。樹上のリスや鳥も襲います。植物では、ヤマブドウ、サルナシ等も食べ、日本に暮らすほ乳類の中でもトップクラスの雑食性を誇ります。



赤谷に生息するホンドテン

このホンドテンは、ネズミ等の小動物を食べることで、その数を調整し、植物の実を食べながら、糞として種子を散布するといった森林の生態系の中での役割を果たしています。

赤谷プロジェクトでは、サポーター（ボランティア）が、テンの糞（サンプル）を採取し、プロジェクトが分析・評価するホンドテンモニタリング調査（以下：テンモニという。）を約8年間にわたって行ってきました。その数は4,198サンプルにも及びます。この成果を環境教育に生かすべく新たな取組みを始めました。

「テンモニからはじめる森林環境学習」

ホンドテンのフィールドサインを探す長年のモニタリング活動で培われてきたノウハウを活用し、ホンドテンが生息する全国を舞台に「人と森林（自然）とのつながりの新たな扉を開く」日本初？のホンドテンにスポットを当てた自然観察ガイドブックなどを赤谷プロジェクトサポーターと協働で作成したいと考えています。



テンモニ調査の様子

【当面の課題】

- ・ボランティアによるテンモニ調査の継続
- ・センサーカメラによる、ホンドテンの撮影
- ・ホンドテンの餌となる動植物及び生息環境の調査

などが、課題となっていますが、昨年までにテンモニ調査を実施していただいた、通称：テンモニ隊の皆様及び足立高行先生（応用生態技術研究所所長）が協力していただけることとなりました。



調査に参加する高校生

【アウトプットのイメージ】

テンモニ調査をとおして、フィールドサイン（動物の痕跡（糞や足跡））のを見つけ方を体験しながら、森林の生態系について学べるといった、いわゆる「ホンドテンの目から見える環境教育実践マニュアル（仮称）」の作成を検討します。

ホンドテンにスポットを当てた、自然観察会等の開催。（例：「テンの付くもの探せ！」「テンモニ調査と自然観察会～テン糞から見える自然環境～」など）

作成した本・冊子には、市民との協働で活動するためのノウハウ等も掲載したいと考えています。

IV 地域との連携

赤谷センターでは、赤谷プロジェクトの目標の1つである、「持続的な地域づくり」を目指し、地方自治体、教育関係機関や地元NPO団体等と協力・連携関係を構築するための様々な取組を実施しています。

1 地域行事等への参加・協力

平成26年度は、利根沼田地域のイベントなどに利根沼田森林管理署及び赤谷プロジェクト地域協議会等と連携しながら積極的に参加しました。

① みなかみ町内でのイベント

「赤谷湖Eボート大会2014」

平成26年5月25日（日）10人乗りの手こぎボートレース「赤谷湖Eボート大会2014」（猿ヶ京温泉観光情報協会主催）が、みなかみ町の赤谷湖で開催されました。県内外から23チーム約230人が参加しました。

赤谷プロジェクト地域協議会から、大会に出場し、赤谷プロジェクトのPRを行いたいと連絡をいただき「チーム赤谷プロジェクト」として競技に参加してきました。



「猿ヶ京赤谷湖上花火大会」（群馬県みなかみ町猿ヶ京温泉）

平成26年8月23日（土）群馬県みなかみ町まんてん星の湯前の広場において、猿ヶ京温泉まつり実行委員会主催の猿ヶ京温泉赤谷湖上花火大会のイベントに赤谷プロジェクト地域協議会と合同で参加しました。

昨年に引き続き、地域協議会からの協力要請を受けて、地元イベントに参加することとしました。

○当日は、体験メニューは以下のとおり

- ・ヒノキの球果を使用したストラップ作り
- ・森のかけらストラップ作り
- ・ロケットリーフ（新規）



ヒノキ球果ストラップ



ぐんまちゃんが来ました。

みなかみココイラ2014に参画！

人と自然とのつながりをわかりやすく伝え、赤谷プロジェクトの目標である持続的な地域づくりを推進するため、昨年度から、みなかみココイラ（旧オンパク）にパートナーとして参画しています。

※ みなかみ“cocoira”（ココイラ）とは、地元の人が地元の人を案内して、みんながこの町を大好きになるための小さなプログラムの集まりで、温泉地として地域の活気とつながりを再生するまちづくりイベントです。

① NHKほっとぐんま640出演！

平成26年9月26日（金）18:40NHK前橋放送局にて、「NHKほっと群馬640」で、みなかみココイラ2014を紹介するため、みなかみ町観光協会（木村崇利）、カスタネット（富沢健一）、月夜野びーどろパーク（倉田富夫）と一緒に出演してきました。

内容は、はじめにみなかみココイラの紹介の後に、具体的なプログラムの紹介として、カスタネット作りの紹介、月夜野びーどろパークのグラス作り、その後「ネイチャークラフト～マツのコデラックス豪華版～」の作品見本と作品を作る材料等の紹介を栗ちゃんが行いました。



野口キャスターと記念撮影

② みなかみココイラ「森の探検ウォークラリー～火起こし体験と探検隊カレー！～」

平成26年9月27日（土曜日）、群馬県みなかみ町相俣高原千葉村（群馬県みなかみ町相俣1744-15）において、みなかみココイラ2014のプログラムNo.8 「森の探検ウォークラリー」を実施しました。プログラムは、指導者の自己紹介を行ってから、プログラムにそって、ターゲットアニマル、トレジャーカード、森の恵みと林業、樹木の種子と順番にポイントまわりました。



各ポイントに望む姿勢はみな全力で、特に火起こし体験はなかなかつかない火にもめげずに、ひたすらがんばる参加者もいました。

参加者からは、「普段体験できないことをやれて楽しかった」「無線機を使うのが楽しかった」「これからも機会があったら是非参加したい。」など、良い評価をいただきました。



③ みなかみココイラ「ネイチャークラフト教室～マツのコーデラックス豪華版！～」

平成26年10月15日（水）、泊まれる学校「さる小」（群馬県みなかみ町相俣1744-15）において、みなかみココイラ2014のプログラムNo. 28ネイチャークラフト教室「マツのコーデラックス豪華版！」を実施しました。

松ぼっくりやドングリなどの木の実とビーズ等を使って、豪華なクリスマスデコレーションツリーを作成します。完成度の高い作品を作りながら、自然の素材の良さを体感します。今年は、友人に自慢できる作品を作りました。

皆様！いい作品できましたか？ご満足いただけましたでしょうか。じっくりと時間をかけて、満足の行く作品を作っていたらと思います！たぶん？友人知人、お子様・奥様等に自慢できる作品に仕上がったと思います。



ご参加ありがとうございました。（*_^*）



② 沼田市内でのイベント

「21世紀の森フェスティバル」

平成26年8月24日（日）群馬県立森林公園「21世紀の森」で開催された、21世紀の森フェスティバルに参加しました。例年、利根沼田森林管理署ブースでは、しおりづくり等を行っています。平成24年度から赤谷プロジェクト広報活動の一環として参加しています。

赤谷森林ふれあい推進センターの内容

- ・漢字クイズ（漢字クイズの解答の裏面に赤谷の森自然散策のチラシを印刷）



・ヒノキの球果のストラップづくり

昨年に引き続きテント半面をお借りして、ヒノキ球果のストラップづくりを行いました。はじめての方もゆっくり作れるように、30分10人ごとに予約制にて実施しました。



「第19回ごったくまつり・ボランティアフェスタぬまた」(群馬県沼田市)



平成26年12月7日(日) 沼田市保健福祉センター(群馬県沼田市東原新町1801-72)にて、沼田市ボランティア連絡協議会・ごったくまつり実行委員会の主催する「第18回ごったくまつり・ボランティアフェスタぬまた」に参加し、ネイチャークラフト体験を行ってきました。イベントでは、ステージ発表や活動展示、体験コーナー、食品販売などが行われ、多くの来場者でにぎわいました。

赤谷森林ふれあい推進センターの会場では、赤谷プロジェクトをPRするレイアウトを組み併せてネイチャークラフトを行いました。会場の環境やスペースの都合から、今回は準備の簡易な「ヒノキの球果を使用したストラップ作り」を実施しました。



※ このイベントは、ボランティア活動に対する市民への理解を深めるとともに、活動状況の発表の場を通して来場者と参加者の交流を深めるために行われています。

② 前橋市内でのイベント

「グリーンフェア2014in敷島公園まつり」(群馬県前橋市)



平成26年4月29日(火:祝) グリーンフェア2013in敷島公園まつりが、群馬県前橋市敷島町「敷島公園」において開催され、関東森林管理局技術普及課と共同で赤谷プロジェクト等の取組をPRしてきました。今回も、関東森林管理局ブースの隣に「赤谷森林ふれあい推進センターブース(赤谷プロジェクトPRブース)」を設置していただきました。

赤谷森林ふれあい推進センターブースの内容

- ・空飛ぶタネの模型体験(ロケットリーフ)
- ・木の名前いくつか読めるかなパネル
- ・パネル展示等



2 地域の実践への支援

赤谷センターでは、ふれあい業務を通じて、地域のNPO等への支援を行っています。

「環境教育アイテムを活用した地域振興」への寄与

～大空高くロケットリーフで支援のWA!～

赤谷センターでは、みなかみ町の廃校（旧猿ヶ京小学校）活用プロジェクトを行っている「(株)猿ヶ京小学校スポーツアカデミー」から相談を受け、大人も子供も気軽に楽しめる環境教育教材として、また、森林文化を伝え、緑化運動の啓蒙を通じて地域振興等にも寄与できる「空飛ぶタネの模型（名称：ロケットリーフ）」を開発しました。

開発にあたっては、アイテムの形状・コストはもとより、体験プログラムや普及方法等についても、アイデアを出し合いました。

「ロケットリーフ」の様々な活用

○環境教育

森林教室等のプログラムに種子の話を組み込み、プログラムの最後を盛り上げるためにロケットリーフの対空時間を競う大会を行ったり、昼食後の遊びとして活用するなどプログラムの時間調整に使える便利なアイテムです。

○イベント

イベントの時には、ブースにお客様を呼び込むためのキャッチ用のアイテムが重要です。ロケットリーフをブース前で飛ばすと、空高く舞うことから自然と目につき、また、短時間で作成できることなどから、イベント時の集客に最適です。また、みなかみ町では、抽選会の時にロケットリーフに賞品番号を記入し、会場へ向けて飛ばすといった使い方もしています。担当者によると、抽選の賞品よりロケットリーフの問い合わせの方が多とのこと。



○地域振興への寄与

みなかみ町新治地区の情報発信基地である道の駅「たくみの里」では、短時間で楽しめるプログラムとして、ロケットリーフを活用しています。また、これは県産材を使用していますので、地域振興へも寄与しています。



○間伐・間伐材利用等の推進のPR

ロケットリーフは、平成25年5月1日間伐材マーク事務局より、間伐材マークの認定（認定番号K1303301）を受けたことから、ロケットリーフを通じて、間伐推進の普及啓発及び間伐材の利用促進もPRできます。

○緑の募金

ロケットリーフの売上の一部を森林整備に役立てていただくために「緑の募金」へ寄付することとしています。

○障害者就労支援

ロケットリーフの袋詰め作業を障害者団体へ委託し、障害者の就労支援を行っています。

○自然林復元試験地

赤谷プロジェクトでは、植栽に頼らずに自然林に復元するための試験地を設定しています。

ここでは、赤谷プロジェクトを見学に来ていただいた方にロケットリーフを使って種子が風に乗って飛んでくる様子をイメージしていただいています。



○今後の取組

ロケットリーフは、様々な可能性をもったアイテムです。間伐材マークの認定を受けたことで、環境教育のプログラムに幅を持たせられるとともに、このアイテムをみなかみ町発！全国区へと普及させることで、森林・林業はもとより、地域振興にも寄与できると考えています。

新たなNPO等への技術・支援のあり方として、参考になればと思います。ぜひ！ロケットリーフで様々な支援のWA！を広げましょう。

「民話と紙芝居の家」との協働イベントの開催

特定非営利活動法人「にいほるこども文化塾（館長 持谷靖子）」が指定管理者として、運営している「民話と紙芝居の家（群馬県みなかみ町猿ヶ京温泉1150番地1）」と連携し、自然観察と民話等の融合した「第3回赤谷の森自然散策～冬の観察会と紙芝居～」を実施し、地域の文化的財産である当施設



にいほるこども文化塾の子供たち



にはほるこども文化塾の支援を行いました。

※ 特定非営利活動法人「にいほるこども文化塾」とは、未来を担う子供育成の視点を持って、特に当地域に顕著に残された民話等を通じ、文化、芸術、経済、地域活動を行い、明るい地域社会を作り、年齢、男女、職業等の枠をこえて地域社会の人々と共に文化的な環境作りに寄与することを目的に活動している。

3 赤谷プロジェクトの活動規模

赤谷プロジェクトが調査活動や視察・イベントなどを通じて、プロジェクトエリア周辺地域の振興にどの程度貢献しているのかの目安として、おおよその延べ人数を算出しました。

- (1) 環境教育・イベント等約2,300人
- (2) 調査活動等約900人
- (3) 会議・検討会等約500人

平成26年度の赤谷プロジェクトの活動規模は、延べ人工として、約3,700人規模の活動でした。また、赤谷プロジェクトを運営する国側の出先機関として、沼田市に関東森林管理局 赤谷森林ふれあい推進センター（森林整備部所属）を設置し、常勤職員3名、臨時職員1名、計4名の配置を行っています。

※ 規模人工調査は、赤谷センターが、各イベント・視察・環境教育・赤谷の日等からカウントしているデータを基に算出しました。

モニタリングに調査等に関しては、調査請負者への聴き取りや個別の調査日数に平均的な一日当たりの調査人数を掛けて算出しました。

会議等については、出席者数を会議ごとに算出しました。会議は、赤谷プロジェクト関係する会議（東京で開催された会議も含む）をカウントし、集計は、十の位を四捨五入し、百人単位としました。

V 業務研究発表会への取組

赤谷プロジェクトは平成16年度から始まりましたが、研究者や大学生の研究フィールドとして、広く利用されています。

研究対象は多種多様で動植物などの自然科学のほか、地域社会と自然の関わりなどの社会科学系の研究等、様々な視点で調査・研究活動が行われています。赤谷センターも、赤谷プロジェクト関係者と協力し、業務研究発表に参加しています。

1 赤谷センターにおける業務研究発表会への参加

年度	場所	課題等	備考
H18	林野庁	「赤谷プロジェクトにおける環境教育について」 発表者：赤セ：小川純、NJ：茅野恒秀、地協：林 泉	全国森林レクリエーション協会会長賞
H18	関東局	「赤谷プロジェクトにおける猛禽類モニタリング～赤谷の森における協働調査の実施と成果報告～」 発表者：赤セ：山本道裕、NJ：出島誠一、地協：松井睦子	
H22	関東局	「赤谷プロジェクト発足8年目を迎えるに当たって～赤谷の森管理経営計画書の策定～」 発表者：藤代和成	
H24	関東局	「赤谷プロジェクトって！知っていますか？」 発表者：栗田 喜則	
H25	関東局	「赤谷プロジェクトにおける市民参加のモニタリング調査（ホンドテンを指標種とした森林環境調査）」 発表者：赤セ：石坂 忠、赤Pサポーター：鈴木 誠樹	
H26	関東局	「ニホンジカ被害の『未然防止型対策』の検討と実践」 発表者：赤セ 藤木 久司、(株)群馬野生動物事務所 代表取締役 春山 明子	

※ H18年度の林野庁発表は、関東局の推薦枠の中で、林野庁で発表しました。

2 平成26年度関東森林管理局森林・林業技術等交流発表会

平成27年2月19日～20日、「平成26年度 関東森林管理局森林・林業技術等交流発表会」が、当局大会議室（群馬県前橋市岩神町4-16-25）にて開催され、国有林民有林あわせて22課題が2日間にわたり発表されました。

赤谷センターからは、「ニホンジカ被害の『未然防止型対策』の検討と実践」（発表者：赤谷森林ふれあい推進センター自然再生指導官 藤木 久司、(株)群馬野生動物事務所 代表取締役 春山 明子）と題して、近年、全国



発表の様子



発表中の様子

でニホンジカ被害が深刻化し、その対策が大きな課題となっていることを踏まえ、赤谷プロジェクトが取り組む、新たなニホンジカの被害の未然防止型対策として、進入初期段階からその影響を適時にかつ適切に把握し、状況に合わせた総合的な対策を実施する手法等その取り組み状況を紹介しました。

VI 広報活動

1 赤谷センターにおける赤谷プロジェクト広報戦略の推進

赤谷プロジェクトの普段の活動は、基礎情報としての自然環境等のモニタリングや「生物多様性の復元」を目的として行った試験的な取組に対する動植物等の反応の把握などの地道な作業が大半です。

このような地道で長い年月に渡る取組は、国民の皆様からの支援なしでは成り立ちません。そのため赤谷プロジェクトの取組を知っていただくために、今までの広報活動の問題点を洗い出し効果的なPR活動を行うために「赤谷センターにおける赤谷プロジェクト広報戦略企画書」を平成24年度に作成し、広報活動に積極的に取り組んでいます。

○ 赤谷森林ふれあい推進センター赤谷プロジェクト広報戦略の特徴

- ・ 赤谷センター単独でも実施可能なこと
- ・ 月別取組目標を設定していること
- ・ 年間の実施スケジュールを設定していること
- ・ 実施にあたって、関連予算を確保していること
- ・ 毎年、広報戦略を作っていること
- ・ 赤谷センター内に担当スタッフを配置していること
- ・ 通常の業務とリンクしながら、進めて行けること

2 平成26年度 広報戦略7つのポイント

ポイント1：地域の核となる情報発信基地の活用

- ・ 「道の駅：たくみの里」や「利根沼田広域観光センター」常設のパネル等を活用し、四季を通じた情報発信を行う。
- ・ 新幹線上毛高原駅内の「みなかみ町展示場」を使用した広報活動を継続しつつ、来場者が楽しめるような展示を創作する。
- ・ 記者クラブとの関係を密にし、積極的な情報発信を行う。



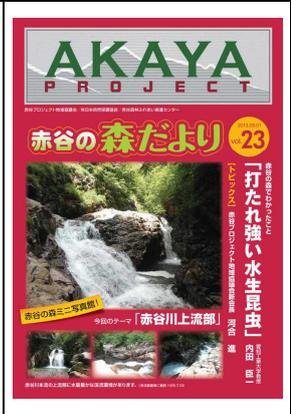
利根沼田広域観光センター



たくみの里

ポイント2：情報誌「赤谷の森だより」の活用（7,000部）

- ・ 赤谷の森だよりの新たな送付先の開拓を行うとともに、現在の送付先を見直し少ない部数でより効果的な広報活動を展開する。
- ・ 赤谷の森だより内容をさらに見直し、現在の4ページ中で効果的な編集を行うとともに、今年度は、「地域と繋がる赤谷プロジェクト」をテーマにより親しみある紙面づくりを行う

			
<p>第1号～「赤谷プロジェクトかわら版」を発刊</p>	<p>第4号～「赤谷の森だより」と名称変更</p>	<p>第14号～紙面をより親しみやすく刷新</p>	<p>第23号～紙面をよりビジュアル的に刷新</p>

○情報誌の変遷

- 平成17年3月 広報誌第1号「赤谷プロジェクトかわら版」発刊
- 平成19年3月 広報誌第4号より、「赤谷の森だより」に名称変更（年3回発刊）し、みなかみ町内全戸に配布（発行部数11,000部）
- 平成20年5月 広報誌第8号より、発行部数を12,000部に増刷
- 平成22年5月 広報誌第14号からは、紙面をより親しみやすい内容に刷新
- 平成25年9月 広報誌第23号からは、よりビジュアル的な紙面及び経費の節減を目指し、紙面を刷新しました。（発行部数7,000部）

「地域と繋がる赤谷プロジェクト」

トピックス

地域と繋がる赤谷プロジェクト



一般社団法人さる小学校スポーツアカデミー 校長 藤島 健治(いじま けんじ)

自己紹介と質疑応答していること(仕事含む)を教えてください。

はじめまして、泊まれる学校さる小学校長の藤島と申します。2008年に廃校となったさる小学校ですが、みなかみ町をはじめ、多くの方々のご協力のもと2012年4月から「泊まれる学校 さる小」として運営をスタートさせました。多くの方々にご利用されることが本来の目的と想っておりますので、宿泊をお願いいただいた方々、地域の方々、貴世代の交流をはじめ「泊まれる・遊べる・学べる」をコンセプトに地域の活性化を目的とした施設として積極的な活用をしております。

赤谷プロジェクト関係者とお知り合いになった経緯をお知らせください。

群馬県主催イベントの会場候補にあげていただいた際にお付合せしがスタートしました。みかでもロケットリーフを共同開発し、普及にもご協力いただくという楽しい絆で繋がっていると勝手に思っております。ロケットリーフと

は簡伐材を利用した空飛ぶタネの模型です。輪ゴム1本の動力で信じられないほど高く舞い上がり、ゆっくりと回転しながら落ちてくるといって若者女性誰でも楽しめるスピリッツの簡伐材で作るおもちゃです。また、オンラインでも共同イベントを開催するなど今後も楽しい取り組みを発信できればと思っております。

今後、赤谷プロジェクト関係者で行ってみたい企画等がありましたらお願いします。

うちは、さる小に宿泊したお客様や地元の子どもたちが参加できるイベントを多く行ってほしいと思っています。荒れた山に入り簡伐材を行い、その簡伐材でベンチやテーブルを作り、そこでお菓子など食べて、ロケットリーフで遊ぶ！簡伐ツアー等！私自身が参加したいなと……

赤谷プロジェクトへ一言お願いします。(何でもOK!)

さる小へ来るたびに面白い遊びやアイデアをいただいております！今後多くの人々が参加できるイベントを楽しみにしています！



ロケットリーフ体験ブース

様々な研修施設として利用

地域と繋がる赤谷プロジェクト



民話と紙芝居の家

(NPO法人さるこ文化館)

語り、紙芝居発表
宮崎りえ子

自己紹介と質疑応答していること(仕事含む)を教えてください。

皆さんこんにちは。私は自然と子供と紙芝居が大好きな宮崎と申します。県立温泉にある「民話と紙芝居の家」で、館長(持台崎子)をはじめお話し先の方のご指導を頂きながら日々働いています。普段は茶室に館内の説明や「のぞきかくり」、紙芝居の発表、また地元の民話やお祭りの紹介などを行っています。毎週土曜日には、館長が子供達に民話読みの指導を行っているため、そのお手伝いをしながら自分も勉強とじて頂いております。「民話と紙芝居」は、どの年齢の方にも楽しんで頂けますし、食育、介護向けの紙芝居、当館オリジナルの手作り紙芝居もあり、魅力一杯です。自然一杯のみなかみ町に沢山の方が足を運んで下さるよう、仕事を運して少しでも貢献できればと奮闘している毎日です。



民話と紙芝居の家 (H26.5.24)

赤谷プロジェクト関係者とお知り合いになった経緯をお知らせください。

2013年11月に泊まれる学校「さる小」で行われた「さる小の私」というイベント時に赤谷プロジェクトの方が民話や紙芝居に興味を持って下さったのが、きっかけです。そして翌年2月に行われた冬の懇談会に、初めて「民話と紙芝居」と赤谷の森自然館のコラボ企画を実施。その時に赤谷プロジェクト地域協議会の委員が少ない事を知り、館長と共に正会員になりました。

今後、赤谷プロジェクト関係者で行ってみたい企画等がありましたらお願いします。

今年度赤谷森林ふれあい推進センターの、「赤谷の森自然館」という企画で、一年を通して3回のイベントで「民話と紙芝居の家」のコラボで実施させて頂いています。大変好評なので、今年度以降も内容を検討しながら同様の企画をして頂けたらと思います。また、自然館だけでなく、今年実施した千葉村での火おこし体験やロケットリーフの作成、山の木の葉を使ったネイチャークラフト教室も実施です。今後楽しい企画を沢山考え、一緒にさせて頂きたいなと思っております。



民話と紙芝居の家 (H26.10.20)

赤谷プロジェクトへ一言お願いします。(何でもOK!)

新しい企画のお話を頂く度にとてもワクワクしています。赤谷プロジェクトの活動をもっとたくさんの方々に知ってもらいたいです。これからも楽しい企画に期待しています。今後子供達に豊か自然を伝えていくお手伝いをさせて頂きまますので、よろしくお願致します。

地域と繋がる赤谷プロジェクト



上牧温泉 辰巳 龍

(代表取締役社長)

深津 卓也

自己紹介と質疑応答していること(仕事含む)を教えてください。

皆さんこんにちは。私は上牧温泉、辰巳龍の深津と申します。みなかみには18湯の温泉地がありますが、上牧は湯が4軒という小さな温泉地です。温泉病院があり、温泉の質も良いため国民保養温泉地にも指定されています。温泉、保養に溢れた静かな環境です。当館は4年間ばかり、放浪の温泉家、山下清さんにお越しいただいた事で、原画やガラススタイル通りの大壁風呂を築くことができ、夕食には地元の食材を活かした炭火山里料理いろいろが堪能できるお店です。温泉、人、炭火の湯も(辰巳龍三湯)を大切に守り何卒となく訪れたくなる施設着の格を目指し、上質な日常を感じていただけるよう努力しております。



炭火山里料理いろいろが堪能

赤谷プロジェクト関係者とお知り合いになった経緯をお知らせください。

新治の旅館の先輩たちが、地域の森「赤谷の森」で、「生物多様性の復元」と「伝統的な地域づくり」に取り組んでいる話を聞かせていただきました。なかなか実際の活動には参加できておりませんが、昨年のおみなかみCoCura(ココイラ)のネイチャークラフト教室に参加し、地元の薪木や松ぼっくり、木の葉を使い素敵なクリスマス用オブジェを作らせていただきました。山の自然の素材に直接触れることができ、森の魅力を体感させていただきました。



ネイチャークラフト教室参加

今後、赤谷プロジェクト関係者で行ってみたい企画等がありましたらお願いします。

昨年からはまった、みなかみの地球材を使った「カスタネット」づくりを、ぜひ宿泊されるお客様にも体験してもらいたいと思っています。親子で楽しむオリジナルカスタネットづくり、音の通いや木の温もりがよいですね。将来はみなかみ18湯の「湯めぐり手形」になれば嬉しいですね。

赤谷プロジェクトへ一言お願いします。(何でもOK!)

地元の方とお客様が参加し交流の輪が広がる企画を期待しています。地道な自然保護活動に感謝するとともに、これからも、赤谷プロジェクトの活動を応援してまいります！



カスタネットづくり

赤谷の森だよりvol. 26

- 赤谷の森ミニ写真館
「赤谷の森の彩 (いろどり) (色彩の饗宴！ノアザミとヒメシジミ)」
- 赤谷の森でわかったこと「利根川最上流部、赤谷エリアの溪流環境」
【溪流環境WG座長・NACS-J参与・国土館大学：中井 達郎】
- 地域と繋がる 赤谷プロジェクト
【泊まれる学校さる小校長：飯島 健治】
- 赤谷プロジェクト活動報告会
【基調講演 東京大学准教授：蔵治 光一郎】
 - 赤谷プロジェクトに関するイベント予定
 - お知らせ (関東森林管理局 人事異動)
 - 赤谷プロジェクト活動トピックス (4月～7月)
 - 赤谷プロジェクト、って？
 - 赤谷プロジェクトサポーター募集！



赤谷の森だよりvol. 27

- 赤谷の森ミニ写真館
「旧三国街道の動物たち！ (旧三国街道のツキノワグマ)」
- 赤谷の森でわかったこと「イヌワシの舞う豊かな森を未来へ！」
【(公財) 日本自然保護協会・赤谷プロジェクト猛禽類WG事務局
：出島 誠一】
- 地域と繋がる 赤谷プロジェクト
【民話と紙芝居の家：宮崎 りえ子】
- みなかみココイラ2014年にパートナーとして今年も参加！
- 森の恵みと学びの家がプレオープン
 - 赤谷プロジェクトに関するイベント予定
 - お知らせ！（関係者の異動交代等）
 - 赤谷プロジェクトの活動トピックス (8月～11月)
 - 赤谷プロジェクト、って？
 - 赤谷プロジェクトサポーター募集！



赤谷の森だよりvol. 28

- 赤谷の森ミニ写真館
「自然の造形美！（自然ハ、不思議がイッパイ！）」
- 赤谷の森でわかったこと「赤谷の森で増えるニホンジカ」
【群馬野生動物事務所 代表取締役：春山 明子】
- 地域と繋がる 赤谷プロジェクト
【上牧温泉 辰巳館 代表取締役社長：深津 卓也】
- 遊びにおいでよ！赤谷の森学校へ！
【赤谷の森学校 代表：川端 自人】
 - 赤谷プロジェクトに関するイベント予定
 - 赤谷プロジェクトの活動トピックス (H26. 11月～H27. 3月)
 - 赤谷プロジェクト、って？
 - 赤谷プロジェクトサポーター募集



ポイント3：ホームページ・メルマガを積極的に活用

- ・ 赤い谷のブログを昨年同様楽しくユーモアのあるブログを作成する。また、情報ソースの鮮度を意識した発信を行う。
- ・ ホームページのイベント情報をより楽しく掲載する。
- ・ 「赤谷の森だよりメルマガ版」(関東森林管理局メールマガジン)の内容を見直しつつ、ブログや赤谷プロジェクト関係者のサイトとリンクを張った情報発信を行う。

ポイント4：業務研究発表へ毎年参加

- ・ 平成26年度もWG会議の協力を得つつ、1課題の発表を目指す。

ポイント5：イベントに積極的に参画

- ・ 地域等が開催するイベントへ赤セ職員を派遣し、パネル・パンフ等を設置するとともにブース運営についてもアイデアを出しながら積極的に参画し、イメージアップを図る。
- ・ みなかみ町観光協会の主催「みなかみココイラ」に積極的にパートナーとして参画する。
- ・ 赤谷の森自然散策等の既存イベントを見直し、さらに高評価を得るよう内容の充実を図る。

ポイント6：ふれあい業務等の技術的な指導及び支援を積極的に実施

- ・ 当センターの持っている環境教育プログラムをNPO等及び管内各署等も含め積極的に支援の拡大を図る。また、新たな環境教育プログラムの開発も行う。
- ・ 研修・セミナー等を積極的に受け入れる。また、受入れのための広報活動を積極的に行う。

ポイント7：赤谷センター作成・監修アイテムを活用した広報活動

- ・ 赤谷の森野生生物カード(50種)やロケットリーフ等を森林環境教育アイテムとして、さらなる活用を図る。(ロケットリーフは、今年度も間伐・間伐材利用コンクールに出品する)

3 関東森林管理局広報誌「関東の森林から」への寄稿

平成26年度は、「赤谷の森」で行われているモニタリング活動や赤谷センターが取り組んでいるふれあい業務なども、よりわかりやすく、より多くの方に興味をもって頂けるように内容を検討しながらを寄稿しました。

番号	発行月	内 容	
123号	6月	<p>「ホンドテンモニタリングを活用した環境教育教材の開発」</p> <p>ホンドテンのフィールドサイン（動物の痕跡（糞や足跡））を探す長年のモニタリング活動で培われてきたノウハウを活用し、ホンドテンが生息する全国を舞台に「人と森林（自然）とのつながりの新たな扉を開く」日本初？のホンドテンにスポットを当てた自然観察ガイドブックなどを赤谷プロジェクトサポーターと協働で作成したいと考えています。</p>	 <p>第123号 赤谷の森から</p> <p>本年は、赤谷センターや赤谷プロジェクトの新たな取組を紹介しています。第1回として、ホンドテンを活用した環境教育教材の開発について、赤谷プロジェクトの取り組みを紹介しています。</p> <p>このホンドテンは、ネズミ等の小動物を食べることで、その糞を糞として種子を散布するといった森林の生態系の中での役割を担っています。</p> <p>「赤谷プロジェクト」が中心となったモニタリングの調査結果、プロジェクトの進捗状況、プロジェクトの意義などを、プロジェクトメンバーのインタビューや写真などを交えて、詳しく紹介します。</p> <p>また、この取組を通して、環境教育に活用したいと考えています。</p>
126号	9月	<p>「地域と繋がる赤谷プロジェクト今月の表」</p> <p>「赤谷プロジェクト」では「持続的な地域づくり」を目標の一つに掲げています。年間を通して、プロジェクトでわかったことなどを地域の皆さんに「地元の魅力」として知っていただく機会として、活動報告会・AKAYAカフェ等様々なイベントを行っています。</p> <p>今回は、昨年度から自然体験プログラムを提供するなどパートナーとして参画している「みなかみココイラ」での取組を紹介します。</p>	 <p>第126号 赤谷の森から</p> <p>みなかみココイラ</p> <p>赤谷プロジェクトが推進する「持続的な地域づくり」を目標の一つに掲げ、今年度も様々な取組を行っています。</p> <p>その一つとして、地元の魅力を伝える活動として、活動報告会・AKAYAカフェ等様々なイベントを行っています。</p> <p>今回は、昨年度から自然体験プログラムを提供するなどパートナーとして参画している「みなかみココイラ」での取組を紹介します。</p> <p>みなかみココイラは、地元の魅力を伝える活動として、活動報告会・AKAYAカフェ等様々なイベントを行っています。</p> <p>今回は、昨年度から自然体験プログラムを提供するなどパートナーとして参画している「みなかみココイラ」での取組を紹介します。</p>
130号	1月	<p>「平成26年度 様々な！ふれあい活動について」</p> <p>赤谷プロジェクトの取組をわかりやすく伝えるために「ふれあい活動」についても数多く取り組んでいます。ふれあい活動にあたっては、参加者のニーズを収集しながら、「より安全に！より楽しく！より学べる！」提案型のプログラム作りに取り組んでいます。今回は、主だった活動を紹介します。</p>	 <p>第130号 赤谷の森から</p> <p>平成26年度 様々な！ふれあい活動について</p> <p>赤谷プロジェクトが推進する「持続的な地域づくり」を目標の一つに掲げ、今年度も様々な取組を行っています。</p> <p>その一つとして、地元の魅力を伝える活動として、活動報告会・AKAYAカフェ等様々なイベントを行っています。</p> <p>今回は、昨年度から自然体験プログラムを提供するなどパートナーとして参画している「みなかみココイラ」での取組を紹介します。</p> <p>みなかみココイラは、地元の魅力を伝える活動として、活動報告会・AKAYAカフェ等様々なイベントを行っています。</p> <p>今回は、昨年度から自然体験プログラムを提供するなどパートナーとして参画している「みなかみココイラ」での取組を紹介します。</p>

Ⅶ その他の活動

1 赤谷の日の取組

「赤谷プロジェクト・サポーター要項」の改定に伴い、「赤谷の日」の定義がしっかりと位置付けられました。今年度の赤谷の日活動は、環境教育WGで検討を行っている「いきもの村の将来像」に向けての基本方針と5年間の活動計画を進めました。

○ 平成26年度 赤谷の日活動実績

年	月	日	参加者数							計	ホスト	全体活動内容
			サポーター	地域協議会	赤セ	NACS-J	林野職員	その他				
2014	4	5	5	3	3	2		9	22	地協会	・地域の子供向け観察会 ・いきもの村環境整備(イメージづくり) ・いきもの村環境整備(歩道整備)	
2014	5	10	10	2	3	2		3	20	N-J	いきもの村環境整備 ・サポーターの初回案内(いきもの村/小出保自然林復元試験地) ・シラネアオイ、南ヶ谷湿地	
2014	6	7	3	1	1	2			7	赤セ	いきもの村環境整備 ・里山環境整備・歩道整備・チョウ生息環境保全・水生生物の生息環境保全	
2014	7	5	12	2	3	2		2	21	赤セ	いきもの村環境整備 ・里山環境整備・歩道整備・池の調査・テンモニ調査・南ヶ谷モリアオガエル調査・その他	
2014	8	2	12	0	3	1			16	N-J	いきもの村環境整備 ・里山環境整備・歩道整備・チョウ生息環境保全・水生生物の生息環境保全・テンモニ調査及びジャノメチョウ探し、ニホンジカ調査(自主活動)	
2014	9	6	8	3	3	2		7	23	地協会	いきもの村環境整備 ・里山環境整備・チョウ生息環境保全・水生生物の生息環境保全・イヌワシ試験地モニタリングサイト整備・初回案内	
2014	10	4	7	1	3	3		2	16	地協会	・里山環境整備 ・歩道整備 ・自然林復元地の植生調査	
2014	11	1	7	3	3	1	3	1	18	N-J	・まき割 ・里山環境整備 ・たくみの里のテーブル、ベンチの作成 ・初回の案内	
2014	12	6	7	3	2	2		2	16	赤セ	・里山環境整備 ・小出保林道の支障木処理 ・イヌワシ試験地調査	
2014	1								0		休止	
2014	2								0		休止	
2014	3	7	5	3	3	1		1	13	N-J	いきもの村環境整備 ・里山環境整備&歩道整備合同枯損木処理等	
小計			76	21	27	18	3	27	172			

いきもの村の将来像に向けた様々な取組を進めました。



ミーティングの様子（5月）



歩道整備の様子（5月）

2 赤谷の日について

赤谷の日とは

「赤谷の日」とは、原則毎月第1土曜日から翌日曜日の朝まで行っている赤谷プロジェクトの活動支援日です。多くの方たちに赤谷プロジェクトを知っていただくための入り口でもあります。サポーターと共に、そのご家族、ご友人もお誘い頂けます。

赤谷プロジェクトの活動拠点であるいきもの村に集まり、各WGが実施しているモニタリング活動や、いきもの村の環境整備等を実施しています。

「赤谷の日」の主催者等

「赤谷の日」は赤谷プロジェクトが主催します。当日の運営は、赤谷プロジェクト地域協議会、日本自然保護協会、赤谷森林ふれあい推進センターの3者が持ち回りで行います。各回の活動メニューについては前月の赤谷の日までに運営担当者からご案内します。

いきもの村の利用

いきもの村には、調査用具の保管やミーティングに使う「村の家」と、作業・活動の休憩場所である「たくみ小屋」があります。「赤谷の日」には、どちらも使う事ができます。「赤谷の日」終了後は、いきもの村内は、自由に散策できますが、建物内には入れなくなります（「チーム企画活動」での利用を除く）。

「赤谷の日」終了後について

「赤谷の日」は日曜日の朝7時に終了します。その後は自由行動となりますので「チーム企画活動」へのご参加や、個人やご家族の自主的な活動などにご利用下さい。また、日本自然保護協会等プロジェクト3セクターがプログラムを用意することがあります。

（「赤谷プロジェクト・サポーター要項」より抜粋）

2 平成26年度を振り返って（赤谷センター職員）

平成26年度は、会議やWG、調査活動のほか、赤谷プロジェクト10周年記念行事で課題として挙げられた持続的な地域づくりに向けて職員一丸となって積極的に取り組んだ1年でした。

赤谷センター所長 ふじさわまさし 藤澤 将志



上席自然再生指導官

今年は、色々な関係者のみなさんと進める赤谷プロジェクトや赤谷センターの仲間と取り組む業務も連携力UP!で取り組んだ1年でした。

また、2年目に入り、赤谷プロジェクトが実現を目指す「生物多様性の復元」と「持続的な地域づくり」が私たち一人一人にとってどのような意味があるのか、つながりがあるのかについて、どのようにしたら伝えられるのか、伝わるのかを自分なりに突き詰めた1年でした。

来年度も引き続き、赤谷プロジェクト地域協議会、(公財)日本自然保護協会、各WG委員のみなさま、そして、赤谷プロジェクト・サポーターのみなさまと協働して赤谷プロジェクトの推進に努めていたいと思います。

赤谷センター くりた よしのり 栗田 喜則（～H27. 3. 31退職出向）



自然再生指導官

赤谷センターにおける広報戦略も3年目に入り、JR上毛高原駅のPRブースの運営やみなかみココイラなど地域のイベント・環境教育等のふれあい業務等がさらに前進した年でした。特にネイチャークラフトに関しては、レベルの高いの作品作りにも取り組むことが出来ました。

私ごとですが、3月31日付けを持ちまして、林野庁を一時退職し、4月からは、国立研究法人森林総合研究所林木育種センター勤務となりました。

赤谷プロジェクトに関わり、業務の幅や人生が豊かになった気がします。今後は、サポーターとして可能な限り赤谷プロジェクトを応援したいと思います。

赤谷センター ふじき ひさし 藤木 久司（H26. 4. 1就任～）



自然再生指導官

4月から赤谷センターに勤務し、業務の多様さ、関係する人の多様さに驚きの1年間でした。赤谷プロジェクトでは今まで意識することの少なかった「生物の多様性」や「地域づくり」について、専門家の方々の一言一言が勉強になりました。森林環境教育では小学生、中学生にわかりやすく伝える難しさを身にしみながら、それでも楽しく進められました。

これからも更に広がる赤谷プロジェクトとなるよう、自分なりのスタイルを見つけながら、赤谷プロジェクトに関係する方々と精一杯やっていきたいと思っています。